

子どもの体験活動を 支援する社会教育の在り方

—第29期青森県社会教育委員の会議 調査研究報告書—

平成22年10月
青森県社会教育委員の会議

発刊にあたって

市町村合併によって多くの市町村の枠組みが変わり、社会教育活動の展開についても、変革が求められる地域が多くなったのではないのでしょうか。そのような中で、子どもたちを健全に育み、変化の激しい現代社会の中でたくましく生きる力を育成するために、社会教育の側面からどのような活動を展開すべきなのかという視点が求められるようになってきました。この社会の要請にどのように応えるか、その課題を受け止め、第29期青森県社会教育委員の会議では、「子どもの体験活動を支援する社会教育の在り方」をテーマに、2年間にわたる調査研究を進めて参りました。

これまでは特別意識しなくても、家庭や地域の中に実体験を積むことのできる場が豊富にあり、その中で子どもたちは、多様な大人の姿を見たり、年齢差を超えて集団行動をしたり、豊かな自然の中で活動しながら、自然に「生きる力」を身につけていました。しかし、最近は様々な要因から、地域の子どもたちを育む地域社会の大切な機能が低下し、その結果、子どもたちが社会人として育っていくために不可欠な「体験活動」「実体験」の場を、意図的に提供していくことが求められるようになっていきます。そのような中で私たちは、現在の子どもの体験活動を支援する活動について調査し、子どものための体験活動を続けている多くの活動家の心意気に接し、この活動の方向性に迫りたいと考えました。

調査研究は、社会教育委員全員が手分けし、県下全域に広がる「いろいろなジャンルの活動を進めている団体」と活動現場18箇所を、実際に訪れました。そして、活動家の皆さんや、活動に参加している子どもたちと直接話す機会を得て、多くの感動的な場面にも接することができました。この場を借りて、訪問調査に御協力いただいた各団体の関係者に厚くお礼を申し上げます。

地域、日本、ひいては世界の未来を担っていく現在の子どもたちが、豊かに力強く育っていくためには、子どもたちの体験活動を豊かにしていくことが極めて大切だと考えます。この調査研究報告書が、そのような地域の活動に携わり日々努力を積み重ねておられる方々へのエールになってほしい、そして、県下津々浦々に子どもの体験活動が力強く根を張っていったらほしいと、切に願う次第です。

平成22年10月

第29期青森県社会教育委員の会議
議長 小笠原 睦 男

はじめに 調査研究テーマについて

- 1 テーマ設定の趣旨…………… 1
- 2 調査研究の方法と方向性…………… 2

第1章 子どもの体験活動の意義

- 1 現代の子どもを取り巻く現状と課題…………… 3
- 2 子どもたちに身につけさせたい力…………… 5
- 3 体験活動を通して期待できる効果…………… 12
 - (1) 体験活動と期待される効果等の分析の試み…………… 12
 - (2) 子どもたちの成長のために…………… 16
 - (3) 地域や大人のために…………… 17

第2章 子どもの体験活動の成果と 今後の方向性 — 実地調査の結果から —

- 1 参加者・スタッフの成長
 - ① ジュニアリーダー研修会【むつ市】…………… 20
 - ② エーデルワイスの会【七戸町】…………… 22
 - ③ ジュニアグローバルトレーニングスクール【青森市】…………… 24
 - ④ 通学合宿にぎりまんま塾【鶴田町】…………… 27
 - ⑤ わんぱく王国 ツリーイング体験【階上町】…………… 30
- 2 学校や家庭への影響、効果
 - ⑥ 蔵館スポーツ&チャレンジクラブ【大鰐町】…………… 32
 - ⑦ 根城地区合同キャンプ【八戸市】…………… 34
 - ⑧ よむよむ応援隊【藤崎町】…………… 36
 - ⑨ 水辺の楽校まべち【八戸市】…………… 38

3	地域への影響、効果	
⑩	おさるの森の探検隊【むつ市】	40
⑪	山の楽校【八戸市】	42
⑫	はちのへ子ども劇場【八戸市】	44
⑬	八戸童話会【八戸市】	46
4	新たな可能性と方向性	
⑭	子ども福祉体験スクール【七戸町】	48
⑮	あおもり子ども劇場 トンバクラブ【青森市】	50
⑯	HEP21エコクラブ【弘前市】	53
⑰	青森原燃テクノロジーセンター【東北町】	56
⑱	チャレンジ体験スクラム事業 ほたて養殖体験【平内町】	58

第3章 子どもの体験活動を支援する 社会教育の在り方

1	より充実した活動とするために	
(1)	組織と運営	60
(2)	活動内容、プログラムの工夫	61
(3)	地域の教育資源の活用	63
(4)	連携・協働	64
(5)	関係者に求められること	64
2	社会教育に期待される役割	
(1)	社会教育行政に求められること	67
(2)	社会教育の持つ可能性	69

巻末資料

1	青森県教育委員会の子どもの体験活動に関わる取組	71
2	調査研究の経過	78
3	第29期青森県社会教育委員 名簿	80

はじめに 調査研究テーマについて

1 テーマ設定の趣旨

第29期青森県社会教育委員の会議では、「子どもの体験活動を支援する社会教育の在り方」をテーマに、調査研究を進めてきました。

2006年12月の教育基本法の改正を受けて、2008年には、中央教育審議会の答申、社会教育法の一部改正、教育振興基本計画が策定されました。この動きに係る一貫した国の考え方は、「学校・家庭・地域の連携・協力を強化し、社会全体の教育力を向上させ、地域全体で子どもたちを育む仕組みを作っていく」ということです。

文部科学省においても、青少年を取り巻く課題として「自立の意欲に欠ける青少年の増加」を挙げ、その原因が「生活習慣の乱れ」「希薄な対人関係」「直接体験の不足」であると分析し、青少年の体験活動を充実させる施策に取り組んでいます。

また、「平成20年度青少年白書」では、「家族間のコミュニケーションの不足」「情報メディアへの過度の依存」「生活リズムの乱れ」「コミュニティにおける人間関係の希薄化」といった背景が、保護者自身にも「自分の子ども時代と比べて現在の地域の教育力」が低下しているという認識をもたらしている指摘されています。

青森県においても、各種調査から見えてくる姿は、子どもたちは基本的な生活習慣が全国平均に比べ概ね良好である一方、自己肯定感が低かったり、善悪の判断基準が曖昧であるという課題が指摘されています。また、地域の大人たちは、町内会活動への協力意識や子どもたちのために地域活動が重要であるという意識は高いのですが、実際に行動した経験がある、現在参加している、という人の割合は少ないという結果が出ています。

これらの課題を解決するためには、今後、学校、家庭、地域社会が連携協力しながら、子どもたちに多様な体験活動の場を提供していくことが重要であると考えます。地域の大人が協働し、子どもの体験活動に取り組むことは、本県の未来を担う子どもたちの生きる力を育むために重要であるばかりでなく、今を支える大人たちにとっても、豊かな生き方や自己実現につながっていきます。さらに地域にとっても、「地域の子どもの健全育成」という課題や目的の共有を通して、コミュニティ形成や自治能力の向上、地域の教育力向上へとつながっていくものと考えます。

そこで、第29期青森県社会教育委員の会議では、青少年の体験活動の充実方策に焦点をあて、地域にある様々な教育資源をコーディネートして子どもたちの体験活動の場を充実させていくために、社会教育が取り組んでいくべき方策を調査研究テーマとし、協議していくこととしました。

2 調査研究の方法と方向性

社会教育における子どもの体験活動は、目的や活動内容が多岐にわたり、また規模や運営組織、地域性やこれまでの活動経緯など、多種多様な状況にあります。そのため、アンケート等による統計分析的な調査ではなく、実際に体験活動の行われている現場を訪問し、活動に関わる大人や子どもの声を直接聞き取る調査を柱としました。それぞれの活動について考察する中で、より良い体験活動にしていくための工夫や、必要な社会教育行政等からの支援、さらには体験活動を支援する社会教育の意義や多様性、可能性にまで迫りたいと考えます。

第1章においては、子どもたちを取り巻く現状とその課題を述べ、子どもたちにどのような力を身につけさせたいのか、子どもたちになぜ体験活動が必要なのか、についてまとめます。



第2章では、実地調査した県内18事業の体験活動について、結果及び考察をまとめます。



第3章では、より良い体験活動として継続、発展していくためのヒントと、社会教育としての役割や可能性について考察し、総合的な提言を試みます。



本調査研究報告書が、青森県内で子どもの体験活動に関わる方々の後押しとなり、また、県内でより一層体験活動が広まり充実していくことの一助となることを期待しています。